

地域と一体となって進める地域交通確保の取り組みについて

和歌山電鐵株式会社

1 会社概要

和歌山電鐵株式会社は、和歌山県和歌山市に本社を置く鉄道事業者であり、貴志川線を運行しています。平成18年4月より、南海電気鉄道が廃止を表明した南海貴志川線（当時）を継承し、地域の熱意、行政による支援を受けて、地方鉄道の再生を実践しています。また、再生後も沿線の機運を維持するため、地域や行政、交通事業者で構成する「貴志川線運営委員会」を設置し、活性化に向けた様々な施策を展開しています。

2 貴志川線の概要

貴志川線は、和歌山駅と紀の川市を結ぶ唯一の公共交通機関で、全長14.3km、10駅の単線路線です。各駅から約1km以内の圏域人口は約7.2万人、年間約218万人が利用しています。通勤目的では和歌山市中心部や大阪方面に向かう利用者、通学目的では沿線の私立短期大学、県立高校、そのほか病院や運転免許センターなどの公共施設へ向かう利用者があり、地域の生活交通手段として利用されています。

3 利用状況

貴志川線の運行開始後の輸送人員は、以下のとおりです。

輸送人員の推移（平成17年度～平成23年度）

（単位：千人）

年度	通学定期	通勤定期	定期外	合計
平成18年度	677	721	716	2,114
平成19年度	679	674	765	2,118
平成20年度	686	704	800	2,190
平成21年度	716	686	769	2,170
平成22年度	731	683	758	2,171
平成23年度	771	690	721	2,182

4 特徴的な取り組み

（1）貴志川線運営委員会の設置

貴志川線運営委員会は、経営責任者の直下に置かれた正式機関であり、「貴志川線の永続的存続」を基本理念に、毎月1回、会議を開催しています。委員長は和歌

山電鐵株式会社、委員として地方自治体、商工会のほか、住民団体、学校関係者が参画し、経営状況の報告、利用促進策やサービス改善策の協議を行うとともに、貴志川線を主体となって運営しています。「地域の鉄道を地域で運営、存続させる」ための取り組みであり、和歌山電鐵株式会社の大きな支えとなっています。

(2) 生活路線としての機能強化

地域住民を対象とした利用促進策としては、利便性向上を目的とした以下のような取り組みを実施しています。

① 通勤の足としての利便性の向上

運行半年後には、JR 阪和線との接続を改善し、終電時刻も30分延長しました。大阪方面への通勤者は、JR 特急「くろしお」を利用する者が多いことから、24年10月には、夕方から夜間の下り特急「くろしお」との接続についても改善しました。

② お得な一日乗車券の発売

平成19年1月より、一日乗車券の販売を開始しています。同乗車券の料金(650円)は、和歌山駅～貴志駅間の往復運賃(720円)よりも低料金に設定されているため、観光客のみならず地域住民の方にも好評を得ています。

③ パーク・アンド・ライド／サイクル・アンド・ライドの推進

「パーク・アンド・ライド」、「サイクル・アンド・ライド」を推進するため、伊太祈曽駅に66台収容の駐車場を開設しています。また、岡崎前駅、田中口駅をはじめ6駅に駐輪場を整備し、生活路線としての機能強化、利便性の向上に取り組んでいます。

(3) 観光利用者の増加

・ リニューアル電車(いちご電車、おもちゃ電車、たま電車)の導入

平成18年度には、沿線住民に自分たちで残した自分たちの鉄道として愛着を持ってもらえるようにと、貴志川特産のいちごをテーマにデザインした「いちご電車」を制作しました。電車改装費用は「いちご電車サポーター」を募り、その一部にさせていただきました。

また、平成19年7月には、地元企業の協賛により、日本で初めて、車内にガチャガチャマシンを設置した「おもちゃ電車」の運行を開始、同年1月に貴志駅の駅長に就任した「たま」の人気とともに、夢のある楽しいリニューアル電車が注目を集め、国内外からの観光客が急増しました。

さらに、平成21年3月からは、こちらもサポーターの支援をつのり制作した「たま電車」が運行を開始しています。



いちご電車



おもちゃ電車



たま電車

※ DESIGNED BY EIJI MITOOKA+DON DESIGN ASSOCIATES

5 今後の課題

平成27年3月末の運営費補助期限を視野に入れ、「チャレンジ250万人 あと4回多く乗って永続させよう」キャンペーンを展開しています。年間250万人の利用があれば、黒字経営が可能であるので、沿線の住民にあと四回乗車してもらえば、約30万人の利用増が達成できる見込みです。

地方自治体、住民、交通事業者の三位一体の創意工夫あふれる取り組みにより、和歌山電鐵株式会社は、地方鉄道再生のモデルと評価されていますが、和歌山電鐵株式会社と地域は、単なる「再生」ではない、「永続」を目指して取り組みを継続しております。

6 最近の話題

平成26年1月5日、貴志駅スーパー駅長“たま”の就任7周年を記念して、“たま”とたまの部下である伊太祈曾駅長“ニタマ”が、ダブル昇進しました。

“たま”スーパー駅長は、和歌山県の観光のシンボルとして、特に海外からのお客様については上半期だけでも前年比240%増となり、観光招き大明神の威光を遺憾なく発揮したことにより、「貴志川線 14駅の総駅長職としウルトラ駅長」となりました。ウルトラ駅長とは、和歌山電鐵の全ての駅長を統括する職制で、今後は貴志駅の駅長業務のみならず、後進の育成に励んでもらいたいという社命が含まれています。

また、“ニタマ”駅長は、就任2年目にして、たま駅長の公休日に貴志駅長代行を務めるだけでなく、伊太祈曾駅長を立派にこなし、和歌山市観光特別大使アゼリニャとしても活躍したことを評価して、「課長職とし、スーパー駅長」が命ぜられました。



たま駅長就任7周年記念式典
(写真)